

【小学校・中学校・義務教育学校用】  
令和2年度学校評価 結果・学校関係者評価

達成度(評価)	
A	: 十分達成できている
B	: おおむね達成できている
C	: やや不十分である
D	: 不十分である

学校名	白石町立福富中学校
1 前年度 評価結果の概要	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学力向上に関しては、ICT活用を推進したことで、定期テスト前のプレテスト・学習会を実施したことで、授業への意欲も高め向上させることができた。この取り組みは改善を加えて次年度へも継続し、生徒の「主体的・対話的な深い学び」と家庭学習の習慣化への取り組みを固めたい。</li> <li>・「特別の教科道徳」では、同じ学年グループの教員が実践する授業を参観およびT2として入ることで、お互いの授業技術を学び合うことができ、相互の授業改善につながった。また、教材研究を十分おこなった上で授業に臨むことができ、生徒の感想として担任以外の教員が道徳の授業をすることについて、良好な感想を持っていた。また、担任以外の教員が道徳の授業をすることについて、生徒はおおむね良好(98%)な感想を持っており、大きな効果を得ることができ、来年度も継続して実践していきたい。</li> <li>・生徒指導面では、おおむね適切な対応ができた。本年度は組織的に一貫性のある対応をすること、チームを組んで対応することをめざして取り組んだ。今後も、全職員で協働した取組をしていきたい。</li> <li>・学校経営面では、教職員の「働き方」に対する意識の改革に努めた。教職員の仕事の効率化や環境整備に努め、負担感なく、意欲的にチームとして学校教育目標の達成に向むことができるようにする。文部科学省が示したガイドラインを基に、「働き方」に対する意識の改革に努める。</li> </ul>

2 学校教育目標	夢を持ち、豊かに生きる生徒の育成 ～ コミュニティ・スクールを通して ～
----------	--------------------------------------

3 本年度の重点目標	<p>①教職員の協働力を発揮した小中連携と地域連携・・・縦系となる「小中連携」、横系となる「地域連携」</p> <p>②確かな学力の定着と教師の指導力向上・・・「基礎基本の定着を図り、主体的に対話的な深い学びに向けた授業改善」</p> <p>③新しい時代に必要となる資質・能力の育成・・・「思考力・判断力・表現力」を高める指導・支援の工夫</p> <p>④地域と共にある学校：コミュニティ・スクールの推進・・・「学校運営協議会」を中心として、社会性・町民性・人間性を育む</p>
------------	---

4 重点取組内容・成果指標	中間評価	5 最終評価
---------------	------	--------

(1)共通評価項目			中間評価		最終評価		学校関係者評価		
評価項目	重点取組	成果指標(数値目標)	具体的取組	進捗度(評価)	進捗状況と見通し	達成度(評価)	実施結果	評価	意見や提言
				●学力の向上	<ul style="list-style-type: none"> <li>●全職員による共通理解と共通実践</li> <li>○定期テスト前のプレテストの実施</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>●学力向上対策評価シートに示したマイプランの成果指標を達成した教師80%以上を目指す。</li> <li>○プレテストの出題範囲の早期提示、プレテスト後の学習会での細やかな指導により、定期テストへの取り組みが向上した生徒90%以上を目指す。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・西部型授業を基盤とした福富型授業に全教科で取り組む。100%の実施を目指す。生徒による「授業アンケート」を実施する。</li> <li>・基礎・基本の定着と学習意欲の向上のため、年4回の定期テストにおいてプレテストを実施する。その後、定着のための学習会を行う。</li> </ul>	B	・校内研究の中で授業づくりを積極的に行っている。 ・生徒の授業アンケートの中の授業に関する項目は良好である。
●心の教育	<ul style="list-style-type: none"> <li>○児童生徒が「自他の生命を尊重する心、他者への思いやりや社会性、倫理観や正義感、感動する心など、豊かな心を身に付ける教育活動</li> <li>●いじめの早期発見、早期対応体制の充実</li> <li>○児童生徒が夢や目標を持ち、その実現に向けて意欲的に取り組もうとするための教育活動</li> <li>○生徒会との運動</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○「プレテストの出題範囲の早期提示、プレテスト後の学習会での細やかな指導により、定期テストへの取り組みが向上した生徒90%以上を目指す。」等の思いやりの項目80%以上を目指す。</li> <li>○いじめ防止等(いじめの定義、いじめの防止等のための取組、事案対処等)について組織的対応ができていてと回答した教員80%以上を目指す。</li> <li>○「将来の夢や目標を持っている」について肯定的な回答をした生徒70%以上を目指す。</li> <li>○QOUアンケートで学校生活満足群65%以上を目指す。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・全職員で道徳科の授業を実施し、複数の視点による授業展開を行うとともに、生徒理解を深める。</li> <li>・月初めの生活アンケート、学期毎のいじめ調査を実施する。 ・いじめの早期発見・早期対応のため、月2回の連絡会を行う。</li> <li>・児童生徒の資質・能力を育む授業づくりに関する校内研修等の実施 ・各種体験活動では、児童生徒に活動の見通しと学びの振り返りを行う活動を仕組む。</li> <li>・生徒主体による各種集会を開き、いじめ撲滅へ向けて主体的な取り組みを促す。</li> </ul>	B	・休校の影響で十分な実践数が確保できていないが、昨年度に引き続き、学年団全員での道徳の授業実践を行っている。	B	・定期的に授業実践を行うことができた。学年全体で道徳の授業に取り組めた。 ・生活アンケートの「他人を思うことができるか」の質問に対し94%以上の生徒が肯定的であった。	A	・地域行事等、率先して参加してくれる生徒がいて心強い。 ・福富の子どもたちは、純粋で優しいと思います。
●健康・体づくり	<ul style="list-style-type: none"> <li>●望ましい生活習慣の形成</li> <li>○感染症等の予防</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○早寝・早起き・朝ごはん等の望ましい生活習慣を心がけていると回答した生徒80%以上を目指す。 ○給食残菜率0%を目指す。</li> <li>○熱中症やインフルエンザ予防対策などを通して、健康で安全な学校生活が送れていると回答した生徒80%以上を目指す。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・毎週1回生活習慣チェックを実施し、保健指導をおこなうとともに、家庭と連携し、「早寝、早起き、朝ごはん」に積極的に取り組む。 ・全職員で給食の臨場指導を行う。</li> <li>・感染症や食中毒の予防、手洗い・うがいの徹底、熱中症指数的の掲示、冷凍庫の整備等を行う。</li> </ul>	B	・7月に行われたアンケートでは71%の生徒が「持っている」または「ある程度持っている」と回答している。 ・各種体験活動においては短縮されたものもあるが、学年ごとに取り組みを行っている。	A	・定期的なアンケートでの実態把握とともに、日頃の生徒観察により、早期発見・予防ができています。 ・気になる事案について、関係者による情報共有・指導方針の決定など、素早くできています。	A	・早期発見・対応ができていと思う。連携も取れていると思う。 ・その都度、適切な対応をとっていただいているように思います。
●業務改善・教職員の働き方改革の推進	<ul style="list-style-type: none"> <li>○多忙感解消</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○業務効率化の推進と時間外勤務時間の削減</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・定時退勤日の設定(毎週水曜日)</li> <li>・学校閉庁日の設定(夏季休業中、冬季休業中)</li> <li>・部活動休業日の設定(第3日曜日、毎週水曜日、原則週2回の休業日)</li> <li>・タイムマネジメントを行うと共に、定時退勤日の確実な実施を行う。</li> <li>・副担任による担任への協力や支援を行う。</li> <li>・事務職員、町雇用職員、非常勤講師等との連携・協力体制を構築する。</li> </ul>	A	・コロナウイルス感染対策のため集会の機会が減少したが、全校放送への変更や学級経営の充実を図り、臨機応変に対応ができています。	B	・集会等は開くことができなかったが、一方で各学級や放送でコロナウイルスに対する差別等の話をすることができた。しかし、ほとんどの学級で学校生活満足群65%を達成することができなかった。	A	・わたしたちが見ても、自分たちでしっかりやっていると思う。 ・短い時間の中で目的に向かって努力している姿を感じます。
				A	・学校全体で感染症や熱中症の予防に取り組んだ。アンケートで肯定的に回答した生徒は81%。 ・しかし、熱中症で病院受診した生徒がいたため、さらに予防対策に努めていく必要がある。	A	・定期的な保健指導をおこない、学校全体で感染症予防の徹底をはかったと思うが、90%、89%の生徒がアンケートで肯定的に回答した。	A	・新型コロナウイルス対策等、苦勞が多かったと思うが、十分対応されていると思う。
				A	・部活動休止日については、各部活動とも確実な休養日を取得できている。 ・毎週水曜日を定時退勤日(18:00)と設定している。	A	・時間外勤務状況を毎月集計し、教職員全体の状況を把握した。(全職員の平均超過時間44時間50分) ・定時退勤日及び部活動休止日を設定することにより、勤務時間短縮に繋げることができた。	A	・働き方改革といながら、先生方は相変わらず忙しいと思うので、いつもお疲れ様です。
				B	・全職員による設定時間での退勤については、目標達成できていない状況である。タイムマネジメントを意識した業務の在り方を検討する必要がある。 ・各教職員が積極的に情報の共有化を図り、業務を進めることができているが、より良い体制を構築できるよう工夫したい。	B	・生徒アンケートでは、81%の生徒が「持っている」「ある程度持っている」と回答した。 ・各種体験活動は地域の方の協力を得ながら、おおむね実施することができた。	B	・アンケートを見ると、生徒と保護者には少し隔たりがあるように思う。 ・目標を持っている子どもがたくさんいると思うが、積極的な考えで進路へ進む子どもを育てて欲しい。
				B	・毎月「ゼロの日」を設定し、校長による勤務規律を指導を実施している。 ・8月5日に西部教育事務所より講師を招聘し、小中合同で勤務研修を実施することにより、教職員としての更なる意識向上へ繋がった。 ・全教員が真摯に業務に関わることで、保護者や地域からの信頼を得ている。	A	・企業委員会と学年会議を効果的に設定することができたが、会議の内容や進行の在り方を改善し、時間短縮に繋げたい。	B	・今年は、コロナ禍での対応で大変だったと思うが、来年以降も子供たちのために取り組んでいきたい。

(2)本年度重点的に取り組む独自評価項目

評価項目	重点取組内容	成果指標(数値目標)	具体的取組	中間評価		最終評価		学校関係者評価	
				進捗度(評価)	進捗状況と見通し	達成度(評価)	実施結果	評価	意見や提言
○コミュニティ・スクールの推進	<ul style="list-style-type: none"> <li>○白石町の目指す4つの重要項目の推進</li> <li>○地域行事への参加</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○4つの項目について、「あいさつ」70%以上、「お手伝い」70%以上「家庭学習」80%以上「自力登校」晴天時100%を目指す。</li> <li>○地域行事に中学生が活躍していた項目で70%以上を目指す。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・PTA、学校運営協議会を中心に、学校、家庭、地域が共通認識を持ち、連携して取り組む。</li> <li>・福富地区の運動会や公民館清掃など地域行事に参加し、活躍できる場を設定する。</li> </ul>	C	・生徒アンケートより「あいさつ」は80%以上。「手伝い」は50%、家庭学習は90%である。	B	・保護者アンケートより、「あいさつ」87%、「お手伝い」67%、家庭学習79%、「自力登校」95%だった。	B	・コロナ禍の中、生徒が家にいる時間が長かったが、家でのお手伝いが少なかった。PTA、地域などによりいっそうの啓発活動を行う必要がある。
○信頼される教職員としての意識の向上	<ul style="list-style-type: none"> <li>○信頼される教職員としての意識の向上</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○諸会議等で指導し、校内NWでの周知・確認を行う。コンプライアンス意識を強化するとともに、勤務規律の堅持100%を目指す。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・職員会議等で指導するだけでなく、長期休業中に外部人材による勤務の研修を実施する。</li> <li>・交通安全防止のため、西部教育事務所発行の運転チェックシート等を活用する。</li> </ul>	A	・毎月「ゼロの日」を設定し、校長による勤務規律を指導を実施している。 ・8月5日に西部教育事務所より講師を招聘し、小中合同で勤務研修を実施することにより、教職員としての更なる意識向上へ繋がった。 ・全教員が真摯に業務に関わることで、保護者や地域からの信頼を得ている。	A	・校長による月1回の「ゼロの日」の指導を受け、全教職員へ更なる意識向上を図ることができた。(加害交通事故0件) ・危機管理マニュアルの確認、避難訓練等を実施し、意識を高めることができた。 ・生徒の個人情報や、学校管理下の情報の持ち出しについて、全職員で確認を行った。	A	・生徒のために自覚をもって、一生涯生命対応してもらっていると思う。

6 総合評価・次年度への展望	<p>●・・・県共通 ○・・・学校独自 ◎・・・志を高める教育</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・学力向上に関しては、定期テスト前の「プレテスト」、「自主学習ノート」の実施を中心に取り組んできた。家庭学習と授業を連携させることで、学習への意欲を向上させることができた。</li> <li>・昨年度の「全教員による道徳授業の実践」に引き続き、今年度は新たに「異教科間TT」及び「予習型授業」に取り組んだ。「異教科間TT」については、お互いの授業を参観およびT2として入ることで、それぞれの指導技術を学び合うことができ、相互の授業改善につながった。「予習型授業」については、生徒の「主体的・対話的な深い学び」を実現するために予習と授業の連動が必要であることを、全教職員で共通理解を図っている。より効果的な予習課題と授業構成の在り方について改善を加え、次年度も継続して取り組む。</li> <li>・生徒指導面では、おおむね適切な対応ができた。本年度は組織的に一貫性のある対応をすること、チームを組んで対応することをめざして取り組んだ。今後も、全職員で協働した取組をしていきたい。</li> <li>・学校経営面では、教職員の「働き方」に対する意識の改革に努めた。教職員の仕事の効率化や環境整備に努め、負担感なく、意欲的にチームとして学校教育目標の達成に向むことができるように、引き続き取り組む。</li> </ul>
----------------	---